

市政を問う!

14 議員が登壇 (一般質問)

下り山地区の今後の災害対策について



菅 敏 徳

菅 建設予定の新小里団地2期分に下り山団地は移転の対象にはならないのか。

伊藤建設課長 今後の計画は36戸になっており、建替え対象団地4団地とあわせ総合的に考えていきたいと思っています。

菅 当地区は避難指示区域に指定されたが避難の為の道路3本の内2本が冠水し内1本が崩壊した。そこで宮野川から花原川への打ち出し付近に、橋の設置が必要と思われるが。

建設課長 現在、熊本県の方で黒川の治水対策の説明があつており花原川堤防のかさ上げ計画もあるとのことでございます。橋の設置については県の計画を見定めたとところで総合的に考えて行かなければならないと思っております。

菅 養護老人ホーム上寿園の今後の方向性について、災害復旧は現在建っている場所での復旧が原則であるが。

岡田高齢者支援課長

平成2年の水害、そして今回の7・12水害で床上90cmもあったという、大変危険な状態で現況復旧については最良ではなく別な場所を考えています。今後の方向性は意見集約会議の中で市独自で再開するのではなく民設・民営化の方向が良いのではないかと意見をいただき、民設民営になりましても今の公営で行っておる養護老人ホームと全く変わりません。処置費につきましても今までどおりの処置費となります。

他に、「7・12豪雨災害を教訓とした新たな取り組みについて」の質問がありました。



移転が望まれる下り山住宅

災害復旧について



井手 明 廣

井手 今回の災害で冠水した市役所から手野線の避難道路として嵩上は出来ないか。

伊藤建設課長 手野方面が一番冠水して支障をきたしたという事で、現在県の農地整備課で、農地の嵩上計画がありますので、計画と併せて市道も嵩上げていきたいとの話を受けています。

井手 今度の遊水池の計画は堤防で囲む「輪中堤」方式、またその中の土地は「地役権補償方式」、どんな補償で誰が補償するのか。

建設課長 土地の価格の30%位で1回の補償です。通常時は水田を作って頂いて、洪水時に土砂が入り込んだ場合は、県の土木部で排除する内容になっています。

井手 黒川の川幅が、非常に狭くなっているのが、早急に拡幅できないか。

建設課長 県の方で、河道掘削を早急にやっていくとの事です。

井手 全半壊世帯の移転希望者の

調査結果は。

井野企画振興課長 家屋被害のありました14行政区の523世帯に対して、「今後の住まいに関する意向調査」を実施し、被災された世帯で46戸、46世帯の移転希望がありました。

井手 移転希望で、どんなところに希望されているか、また、市は進めていく考えは。

企画振興課長 移転先については、「自分で移転先を探す。」が一番多く、次に「市が移転先を用意するならば、そこに移りたい。」という回答でしたので、県道内牧坂梨線のバイパス計画を踏まえ、坂梨・古城地区で将来安全の確保できるところに用地を確保する方向性で、県及び関係機関と協議を進めております。

井手 古城の温泉センターの改修はいつになるのか。

岡田高齢者支援課長 要望が多く、3月末を目標に再開できるように取り組んで参ります。

全国大会出場に対する助成について

井手 一の宮中学校野球部が全国大会に出場する事になり、市として何か支援を考えているのか。

岩下教育部長 全国大会出場助成金として、生徒及び引率者に対して旅費の3分の2を助成する措置があります。横断幕を正門前に掲げます。

遊水池の効果について



田中 弘 子

田中 昭和28年、平成2年、そして平成24年と大規模な水害が発生しました。内牧地区及び商店街の多くが浸水の被害にあいましたが、内牧遊水池の効果はあったのか。

伊藤建設課長 遊水池は洪水を貯留する事により、下流域に流れる水を減らす機能があり、下流域住民の避難時間を確保できると県が検証しています。現在、遊水池が3つありますが、内牧遊水池は午前5時半位には、満水になっており、遊水池ありきでは心配しています。県では、今回の災害関連で遊水池を2つ、それと河道掘削・護岸整備をすることによって、大雨が降った場合、水位を最高2・5m下げる事が出来ること説明されています。

阿蘇中学校の通学路について

田中 通学路の見直しですが、道路の拡張工事発注の時期は。

建設課長 阿蘇中学校地区の通学

路ですが、市道浜川宝泉1号線です。スーパーみややはからの拡幅も、来年度一気に進めていきたいと思っています。取り掛かりは、秋の収穫が終わってからと考えています。

田中 阿蘇中学校入口の交差点信号機設置については、どう考えているのか。

阿南教育長 信号機の件ですが、平成22年度設計当時から話に上がっているという事で、先日もPTA会長さんが要望書を持って来られました。警察、安全協会の方に申し入れをしていますし、また、熊本県土木部あたりにもお願いに行きたいと思っております。



内牧遊水池

農地の災害復旧について



河崎 徳 雄

河崎 災害から五ヶ月過ぎ、砂防、

治山、河川、治水、農地の復旧等の査定も進み、工事発注の段階となりました。農地の復旧で、小災害、単独災害は、農家の協力を求め、独自の予算措置対応でお願いしたい。

本山農政課長 一万箇所を超える被害の届出があり、国の補助で行う部分は、県営195地区21億円程度で、市営326地区で、約12億円見込んでいます。国の補助対象外の小災害、単独災害は580箇所位で、少しでも来年の作付けに間に合う様に自力復旧に対しての一部補助について検討を行っております。

新病院入札の不落について

河崎 8月の予備指名で届出がなかった理由は、

和田財政課長 分かりません。

河崎 9月の入札の指名参加業者と直近の業者は、

財政課長 吉永、岩永、光進、三

津野、小竹を筆頭とする建設工事共同企業体5グループで、一番近い業者は光進を筆頭とする建設工事共同企業体で29億8000万円です。

河崎 11月の入札業者と直近は、

財政課長 この時は、単独企業体という事で18業者指名しております。

応札は戸田、安藤、吉永、三津野、光進の5社で、直近は光進で28億5000万円です。

河崎 2回目入札は不落で条例に基づき業者入れ替えが正当ではないか。

財政課長 9月の入札に関しては共同企業体として行っており、11月の入札における業者については、単独の企業体ということで18社指名したところなんです。

他に、「世界農業遺産について」の質問がありました。



被災した農地

災害避難訓練実施について



阿南 善 範

阿南 平成24年7月12日に発生した九州北部豪雨災害で阿蘇でも多くの方々が被災されました。防災、減災の観点から、河川の水量や、火山の火口内の様子などをリアルタイムで見ることが出来れば、避難の判断基準になるのではないかと。

佐藤総務課長 現在、内牧遊水池に取り付けてあるライブカメラの増設をお願いしています。上流域から下流域までをカバーするライブカメラです。

阿南 阿蘇山も、いつ爆発するか分かりません。普賢岳や新燃岳の噴火は記憶に新しいところです。噴火などの様子を知るための方法は、

総務課長 噴火等に備え、山上有料道路から常時火口側の様子が見れるようになっていきます。

阿南 火口内の様子がライブカメラで見える事が出来れば、避難がスムーズに出来るのではないかと。

総務課長 火山博物館が所有する

ライブカメラを活用する事を検討します。

阿南 研修で富士吉田市や東北の被災地を訪ねる機会がありました。富士吉田市では、富士山の噴火を想定し、溶岩の流れをシミュレーションされ、市民の判断材料にされています。阿蘇市の学校では、防災訓練をどうされているか。

阿南教育長 阿蘇では津波の心配はありませんが、大雨や地震、火災などの心配があります。碧水小学校においては火山が爆発した場合の、古城、坂梨小学校においては、大雨の災害を想定した訓練を実施しております。

他に、「阿蘇駅前利用について（看板等）」の質問がありました。



阿蘇火山博物館のカメラ

農地に堆積した土砂撤去について



園田 浩文

園田 農地の被害査定を進捗状況は。

本山農政課長 熊本県が90%、阿蘇市が70%済んでいます。

園田 査定方法は。

農政課長 市の部分については、民間の約40社へ委託をし、測量設計の成果をいただき、職員で国の査定を受けて進めています。

園田 査定及び撤去作業は、いつ完了するのか。

農政課長 現在、査定設計書を業者で作成しており、その後実施設計に入り、工事の発注となります。現時点では、県・市とも最大限の努力をしながら進めておりますが、災害の範囲が一万筆程あり、思うように出来ておりません。11月からの農家への説明会では、25年8月末までには終了できるように努力しますが、はつきりと申し上げられませんと説明しております。1月内に発注していけば、工事計画の中で復旧時期の

見通しがある程度明確になりますので、その時点で再度、説明してまいります。

災害の廃土処理について

園田 廃土置き場の現状は。

伊藤建設課長 災害住宅から出された廃土については、畜協跡地・岩本畜産跡地・阿蘇北中学校跡地の3ヶ所に受け入れ、都市災害復旧事業の査定を受けております。

園田 最終的に、山積みの廃土の処理は。

建設課長 全て現地に敷きならす方法で進めていきます。個人的な引き取りに関して、問い合わせがありますが、お断りしております。

他に、「災害後の市営団地について」の質問がありました。



農地に堆積した土砂

来年梅雨の避難について



谷崎 利浩

谷崎 来年の梅雨まで半年しかありません。ハード整備は5年かかります。さしあたって今度の梅雨には間に合いません。何月頃までに何をするのか教えていただきたい。

佐藤総務課長 今後の避難対策関係につきましては、現在阿蘇地域土砂災害検討委員会というのが2回開かれており、年度内3月までには、新たな避難対策関係を取りまとめ、各地域で実情に合った避難訓練をやっていきたいと思っています。

谷崎 最大の課題として、雨や雷が激しく、避難ができなかった、という状況にどう対応するのか。

総務課長 気象情報等を見ながら早めに避難という事が、こういう避難できない状況を回避する一番の手段ではないかと思っております。

谷崎 具体的な提案として、一週間とか、一ヶ月間、危険地域の人たちがホテルとか、合宿所に前もって避難するという方法はどうか。

和田財政課長 宿泊施設避難は低めに算定しても、例えば古城地区で試算して、一日244万円ぐらいで一週間なら7倍になります。

谷崎 個室・自炊・洗濯ができる避難合宿所はどうか。

財政課長 市の防災センターを兼ねた部分で、避難所をその中に造るというような方向はあると思います。

他に、「立野ダムについて」、「情報発信、通信手段について」、「避難所、避難所組織作りについて」等の質問がありました。



黒川ダム付近の河川の狭窄状況